

病防第219号  
令和7年8月28日

関係機関長 殿

沖縄県病害虫防除技術センター所長

( 公 印 省 略 )

### 病害虫発生予察技術情報について

令和7年度病害虫発生予察技術情報第8号を発表したので送付します。

---

## 令和7年度病害虫発生予察技術情報第8号

### 水稻二期作におけるコブノメイガの防除対策について

例年水稻二期作において、本種による被害が多発する傾向にあります。被害拡大防止のために以下の対策を徹底しましょう。

#### 1 発生生態および被害

- (1) 日本全土及び朝鮮半島、中国、台湾、東南アジア、オーストラリアに分布する。九州以北では越冬できず、毎年6月頃に飛来してくると考えられている。本県ではイネ科雑草で越冬し、年7～8世代を経過する。
- (2) 成虫は体長7～9mm、前翅長12～18mmで、前翅の地色はやや褐色を帯びた黄色で2本の黒い横条があり、外縁は帯状に黒みを帯びる(図1)。雌成虫の寿命は約1週間で、その間に計100個程度の卵を日中に産卵する。幼虫は多くの場合5齢を経過し、終齢幼虫の体長は17～18mmである。幼虫は筒状に巻いた葉の中に潜み(図2)、手で触るとよく跳ねて後退し、糸を吐きながら落下する。
- (3) 水田における第1世代幼虫は一期作の4～5月頃から散見され、世代を重ねながら増殖し、二期作の9～10月頃に最も多くなる。
- (4) 幼虫は表皮を残してかすり状に食害するため、食害痕が白く目立つ(図3、4)。止め葉や上位葉が被害を受けると光合成能力が低下するため、籾の登熟に影響を与える。

#### 2 防除対策および注意すべき事項

- (1) 葉色が濃く、過繁茂の場合に被害が多くなる傾向があるため、多肥を避ける。
- (2) 二期作の本田では幼虫と成虫が混在しており、移植直後から多発することもあるため、粒剤と液剤を併用し、計画的な薬剤防除を実施する。



図1 コブノメイガ成虫



図2 コブノメイガ幼虫



図3 幼虫による食害痕



図4 多発時の様子

---

★詳しくは沖縄県病害虫防除技術センターにお問い合わせ下さい★

TEL: (本所) 098-886-3880 (宮古駐在) 0980-73-2634 (八重山駐在) 0980-82-4933

ホームページアドレス: <https://www.pref.okinawa.jp/shigoto/nogyo/1010700/index.html>

